

## 6. 指導仮説

B子の問題の解決には、家庭環境を改善して情緒を安定させるとともに、カウンセリングを通してB子の否定的な自己イメージを変え、対人関係に自信を持たせることが必要である。そのうえで、徐々に集団への適応を図っていくことが望まれる。

以下は、全職員が役割を分担し、協力しあって実施することになった指導援助の計画である。

〔本人に対して〕

- (1) B子に対してさりげない言葉かけをしながらラポールを深めるとともに、B子の孤立感を和らげるようにする。【全職員】
- (2) B子に対するカウンセリングを実施する。

【担任】

- ① 学校や家庭に対する不安な心情を受容支持し、共感的に理解することによってB子の情緒を安定させる。
  - ② 自分の行動や性格を見つめさせ、孤立の原因に気づかせる。
  - ③ 自分を肯定的に受け止めさせ、対人関係に自信を持たせる。
- (3) 部活動（合唱クラブ）や学級活動への参加を援助し、対人関係の改善が図られるようにする。【担任、副担任、合唱部顧問】

〔学級に対して〕

- (1) ソシオメトリック・テストの結果を参考にして、B子に孤立感を抱かせない生活班を編成し、活動させる。（B子と相互選択の関係にある生徒を中心に編成する）【担任】
- (2) 教師自信が思いやりの気持ちで生徒に接したり、思いやりの大切さに気づかせたりするなかで、相互受容的な学級の雰囲気づくりをする。【担任】
- (3) 休み時間に学級全体でスポーツやゲームを実施するなどして親ぶくを深め、仲間意識を持たせる。【担任、副担任】

〔家庭に対して〕

- (1) 両親に敬意を示し、肯定的に受け止めながら接することにより信頼関係を形成する。
- (2) B子の問題を改善するためには、両親の協力が必要なことに気づかせ、具体的にどんなことをB子にしてやれるか共に考える。

【担任、副担任】

## 7. 指導援助

上記のような指導仮説に基づいて指導援助を繰り返すなかで、B子は自分自身を肯定的に受け止められるようになり、表情に明るさが見られ、学級での交友関係も徐々にではあるが増えてきている。

11月に再度実施したソシオメトリック・テストの結果からもそれをうかがい知ることができる。

（5月との比較）

被選択数	5	(+3)
被排斥数	12	(-7)
相互選択数	3	(+2)
相互排斥数	3	(-2)

## 8. 考察

この事例では、A教諭の「温かい心と冷静な目を持ち、そして、常に生徒の身近にいること」といった姿勢が問題行動の早期発見につながったものと言える。

また、おおよその仮説と計画性に基づいた資料収集、的確な診断、見通しを持った具体的な指導仮説が一貫性を持ち、B子に対する適切な指導援助に結びついたものである。

さらに、A教諭個人の力だけでなく、指導体制を組み、それぞれが役割を分担し、全職員の方でB子に対する指導援助を進めていったことが、問題行動の改善に大きな効果を上げたものと考えられる。